様式第６号の11

学番	５６	県立八海高等学校

令和３年度　　　　　　　　　　学校自己評価表（報告）

学 校 運 営 計 画		
学 校 運 営 方 針	知・徳・体の調和がとれた、個性、感性豊かな人間性を育み、志を持って主体的に学び続ける生徒を育成する。	
昨年度の成果と課題	**令和３年度の重点目標**	**具体的目標**
基本的生活習慣が確立され、生徒が学業、部活動に落ち着いて取り組んでいる。今後は希望進路実現に向けて、個に応じた指導を充実する。また、スキー部、レスリング部、陸上競技部が全国大会や北信越大会で活躍する成果を上げた。課題としては基礎学力の向上、進路希望への挑戦、ＩＣＴ活用、また「八海高校教員の勤務時間の上限にかかる方針」に基づき、時間外の勤務時間の削減に取り組む。また、総合的な探究の時間を抜本的に見直す必要がある。	生徒の主体的な学びや協働的な学びを推進し、生徒の基礎学力の向上を図る。	ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ、学び合い、ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝの視点を活かした授業を実践するとともに家庭学習時間を増やす。スタディサポート等の結果を分析・検討し「高校生のための学びの基礎診断」による指導の工夫・充実を図る。
	生徒の進路意識を高め、自己実現をめざすための学力の養成。総合的な探究の時間を通して全校生徒と地域を巻き込んだ「チーム八海」を作り上げる。	体験学習を中心としたキャリア教育を充実させる。「総合的な探究の時間」において、地域の方々と13の講座を作り、生徒たちが各々に探究的学習を深める活動を展開する。
	様々な教育活動を通して規範意識を高め、共感できる心を育む。身なりを整える等マナーの向上。	学校行事、部活動の推進、人権教育、同和教育の推進、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動の奨励。教職員自ら模範を示すとともに、継続した指導を徹底する。
	基礎体力と運動能力の向上を図り、自己管理能力を高める。	体力テストの実施、基礎体力の向上、部活動の活性化、健康管理指導の充実。
	働き方改革の推進により、「生徒を伸ばす（授業の質を高める、生徒と向き合う時間を確保する）」「教員が働きがいを持つ（ワーク・ライフ・バランスを含む幸せ感）」ことを達成する。	・部活動の適正化を図る。 ・業務の削減、簡素化、効率化を推進する。 ・定時登退庁に対する意識の徹底。 ・時間外勤務時間の見直し。

重点目標	具体的目標	具体的方策		評価	
基礎学力の向上	・生徒の主体的・協働的な学習を推進し、基礎的事項の理解を確実にする。	教務部	・学校行事等を調整し授業時数を確保する。	A	B
		・１学年	・学習に取り組みやすい環境を整え、日々の授業に集中させる。 ・主に数学科・英語科から課題を提示し、毎日家庭学習をさせる習慣をつける。	B	
		・２学年	・手帳を活用させ、学習予定と結果を記入させる。	B	
		・３学年	・授業への真剣な取り組みのほかに、毎日最低１時間の家庭学習を定着させる。 ・各コースごとにある各種検定に向け、積極的に学習する態度を育てる。	B	
		進路指導部	・学習習慣の確立を図り、授業以外で平均１～２時間の学習時間を確保する。 ・学び方についてのヒントを提供し、学習に向かう姿勢を養う。	B	

			・「高校生のための学びの基礎診断」を活用した指導の工夫・充実を図る。スタディサポート等の結果を分析・検討し、基礎学力の向上・学習習慣の形成に活かす。		
		各教科共通	・アクティブラーニング、学び合い、ユニバーサルデザインの視点を活かした授業改善。 ・ＩＣＴの活用。	B	
		国語	・テンポ良い生徒とのやりとりの中で国語（現代文、古典）の楽しさを追求する。	B	
		外国語	・英語でのコミュニケーションの楽しさを示しながらＩＣＴ機器を駆使した分かりやすい授業を展開	B	
		・地理歴史公民	・プリント、補助教材、視聴覚教材等を活用した分かりやす い授業の実践を図る。	B	
		・数学	・教え合うなどの学び合いを重視した授業を展開する	B	
		・理科	・学び合いや実験などのグループ活動を通じ、周りと協力しながら学び、理解を深められる授業を実践する。	B	
		・福祉	・資格取得や検定合格に向けた学習を通し、福祉に関する知識・技術の習得を図る。	A	
		・商業	・資格取得や検定合格に向けた学習を通し、商業に関する知 識・技術の習得を図る。地域連携を推進する取り組みを行 い、地域社会への理解を深める	B	
進路希望への挑戦	・大学・短大等上級学校への進路希望達成率の向上。 ・進路に対する意識啓発。	進路指導部	・基礎学力の向上を図るとともに、私立文系大学、医療看護系専門学校等の一般入試に対応できる学力を養成する。 ・上級学校見学、進路ガイダンス等による進路意識の啓発。 ・就職指導及び進路実現に向けたキャリア教育の充実。	B	A
	・進路情報提供の充実。	進路指導部	・「進路のしるべ」の改訂、「進路通信」等の進路情報発刊。 ・各種模擬試験・適性テストの実施と結果の有効活用。	A	
豊かな心を育成す	・いじめのない望ましい人間関係の確立。	人権教育、同和教育委員会	・生徒指導部、いじめ防止対策委員会、教育相談部と連携し人権意識と差別のない学校を目指す。	A	A
		いじめ防止対策委員会	・いじめアンケート等に基づくいじめの早期発見、早期対応	A	
		生徒指導部	・ＳＮＳ等、ネット利用についての指導の充実	A	
		教育相談委員会	・教職員への教育相談･特別支援教育･等に関する情報提供。 ・UDLを用いた授業の展開を通じ、生徒の自己肯定感の育成・対人関係スキルの向上を図る。 ・ＳＣとＳＳＷの活用。	B	
		福祉科	・相手の思いに沿った支援を学ぶ活動を通し、他者への共感的理解を大切にする姿勢の育成。	B	
	・学校行事、部活動の推進。	生徒会指導部	・学校行事、部活動の推進を図り、心身を鍛えて積極的に挑戦する意志を育成。	B	

生徒指導の充実	教職員の共通理解のもと指導を行う。	生徒指導部	・マナーの向上と基本的生活習慣の定着。	A	
	生徒の基本的生活習慣の確立。	生徒指導部	・校内・校外における挨拶の励行。 ・スマホ・携帯電話使用マナーの指導強化。	B	
総合的な探究の時間	全校生徒、地域が一丸となって未来に向けた人材の育成を図る。	全教員 全校生徒	・生徒たちが自らを振り返り、生き方と在り方を改めて考える機会を設け、テーマに向けて協働的な活動ができるように指導する。 ・地域と一丸となり、探究活動ができるようにする。	B	B
基礎体力と運動能力の向上	心身の健康に関心を持たせる。	生徒指導部	・自己の健康管理を積極的に行う生徒の育成。 ・校内関係者や各組織、ＳＳＷと連携した健康相談の充実。	A	A
	基礎体力や運動能力の向上を図る。	体育科	・個人種目の全国大会の入賞を目指した専門種目の充実。 ・保健体育の教科による体力テストの実施。	A	
働き方改革	・部活動の適正化。 ・業務の削減、簡素化、効率化。	全職員	・複数顧問制による部活業務の分担。 ・定時退庁日には１７：４５完全退庁　。 ・生徒と向き合う時間の確保。	B	
成果	・ＩＣＴ活用や互いに授業内容について、教科の枠を越えて意見交換を行うなど、授業改善に向けた横のつながりが進んだ。 ・部活動の指導時間など、時間外の勤務時間に関する課題が残る。			総合評価 A	